

2023年10月8日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

レビ記 19 : 17~18

ローマの信徒への手紙 12 : 9~21

「殺してはならない」(第六戒)

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 105~107)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 34 : 6~9

【讚美歌】24「たたえよ、主の民」

【詩編交読】詩編 51 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】209「めさめよ、こころよ」

【祈祷】

【聖書】レビ記 19 : 17~18、ローマの信徒への手紙 12 : 9~21

【説教】「殺してはならない」

<殺してはならない>

今日は、十戒の「第六戒 殺してはならない」という戒めについて、御言葉を聞いていきます。

「殺してはならない」。当たり前のことです。誰もが例外なく従うべき戒めです。

でも、この戒めが守られていない現実を、わたしたちは日々、目の当たりにしています。殺人事件が起こります。自分で自分を殺す、自殺が後を絶ちません。戦争がずっと続き、日々亡くなる方たちがおられます。どうしてなのでしょう。

わたしたちは、この戒めを聞くときに、なぜ殺してはならないか、その理由をきちんと知らなければなりません。この戒めは、社会の中での倫理的、道徳的なこととして言われているのではないし、されたくないことをしてはいけないから、という理由でもありません。

この戒めは、神さまが定められたことなのです。

なぜ、殺してはならないのか。それは、人の命は、すべて神さまのものだからです。神さまが、人の命を創造され、生かし、保っておられます。そして、然る日に、それを地上から取り去られます。

世の中の多くの人々は、自分の命を自分のものだと思っているかも知れません。しかし、わたしたちの命を創造し、生かしておられるのは神さまです。そして神さまは、わたしたち人間を「神のかたち」に創造されました。それは、神さまの呼びかけに応えるため、神さまと共に生きるために造られた、ということです。

ですから、自分の命であっても、他者の命であっても、その命を殺すことは、神さまのものを奪い取ることになります。

さらに、わたしたちの命は、神さまが支配しておられます。生かすこと、そして御許に召されることは、神さまのご計画の内にあり、神さまが主権を振るわれることです。それを、わたしたちがどうかしようとするのは、神さまの持つておられる命の主権を、侵すことにもなるのです。

だから、わたしたちは、殺してはなりません。神さまのものに手を出してはなりません。それはまさに、自分が神のようになろうとすることでもあるのです。

<行いも、思いも>

しかし、ここにいるわたしたちの多くの者にとって、この戒めは、直接は自分と関りが無い、と感じるかも知れません。なぜなら、実際に人を殺すことは、ほとんどないと思われるからです。この戒めは、これまでも破ったことがないし、これからも基本的には守っていけるだろう。これまでも、これからも、人を殺したりまですることはないだろう。

「殺してはならない」という戒めは、そう思われるような戒めかも知れません。

でも、ハイデルベルク信仰問答は、そう簡単にわたしたちを安心させることはありません。少し長いですが、今日の間答の間 105、106 を見てみましょう。

問 105 第六戒で、神は何を望んでおられますか。

答 わたしが、思いにより、言葉や態度により、ましてや行為によって、わたしの隣人を、自分自らまたは他人を通して、そしったり、憎んだり、侮辱したり、殺してはならないこと。かえってあらゆる復讐心を捨て去ること。さらに、自分自身を傷つけたり、自ら危険を冒すべきではない、ということです。そういうわけで、権威者もまた、殺人を防ぐために剣を帯びているのです。

問 106 しかし、この戒めは殺すことについてだけ、かたっているのではありませんか。

答 神が、殺人の禁止を通して、わたしたちに教えようとしておられるのは、御自身が、ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心のような殺人の根を憎んでおられること。またすべてそのようなことは、この方の前では一種の隠れた殺人である、ということです。

つまり、ハイデルベルク信仰問答は、ただ殺すという行為だけでなく、思いや、言葉や、態度において、そしったり、憎んだり、侮辱することも、戒めています。

さらには、わたしたちが殺人に至るようになるきっかけとなる、心の思い。ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心のような殺人の根を持つことも、それは隠れた殺人だ、と言うのです。

これまで、わたしたちの心に、ねたみや、憎しみや、怒りや、復讐心が起こらなかったことがあるのでしょうか。うらやましいな。悔しいな。あの人さえいなければいいのに。あの人も、自分のように苦しめばいいのに。誰もが持つ、このような心の思い。ありふれた、よくある思い。しかし、まさにここから、殺人の根は育ち始め、わたしたちはその思いを抱いている相手を、殺し始めているのだ、ということです。

ハイデルベルク信仰問答は、このような、心の思いを持つことも戒めています。

そうであるなら、一体だれが、この「殺してはならない」という戒めを、これまで守ってきたし、またこれからも守れる、などと言うことができるでしょうか。

<神の怒り>

この戒めに関連する聖書箇所として、今日はローマの信徒への手紙 12：9～21 を読みました。この 12 章は、パウロがローマの教会の人々に、イエスさまの十字架と復活によって救われた者が、どのような生活をしていくべきかを教えているところです。

この中で、14 節にはこうありました。「あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。」。また 17 節、「だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい」。

自分を迫害し、苦しめる者を、呪ってはならない。むしろ祝福せよ、と言うのです。

誰からから悪を行われ、傷つけられても、悪をもって報いてはならない。仕返ししてはならない。むしろ、すべての人の前で善を行うよう心がけなさい、と言うのです。

パウロは、なんと難しいことを言うのでしょうか。一体どこの誰が、心の中の、激しく燃え盛る憎しみや怒りを抑えて、自分に敵意を向ける者を祝福したり、善を行ったりすることが出来るのでしょうか。

…しかし、もしこの戒めがなければ。わたしたちは本当に、憎しみと怒りの炎に心を支配され、自分も、相手も、焼き滅ぼしてしまうことになるのです。

なぜ、わたしたちは、迫害する者を呪ってはならないのか。悪をもって悪に報いてはいけないのか。

それは、19 節に答えがあります。「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐は私のすること、私が報復する』と主は言われる」と書いてあります」。

「復讐は私のすること、私が報復する」というのは、旧約聖書の申命記 (32：35) に書かれていることです。神さまは、復讐すること、報いることは、わたしのすることだ。わたしだけがそれをすることができるのだ、と言われます。

人を審くこと。人間に、その罪に報いる審判を下すこと。それは、人間をお造りになった、神さまにしか出来ないことです。審きは、神さまのもの。神さまの主権によってなされるものです。ですから、わたしたちが自分の思いで人を審くこと、自分の判断で、相手の罪に対して報いようとするのは、この神さまの審きの主権に手出しをすることになるのです。

反対に言えば、この審きをすべて神さまにお委ねすることによってこそ、わたしたちは、神さまの主権を受け入れ、神さまをまことの神としている、と言えるのです。

19 節には「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい」とありました。

ここの、「神の怒りに任せなさい」と訳されているところは、直訳すると「(聖書に) 書かれていることに (つまり、神さまが、復讐は私のすることである、と言われていることに)、その怒りの場所を与えなさい」となります。神さまに、怒りの場所を与えなさい。

わたしが抱いている、誰かの罪に対しての怒りは、本来、神さまが怒られるべきことです。だから、この神さまの怒りに、怒っているあなたの場所を譲りなさい、というのです。人の罪に対して報いることは、怒ることは、あなたの神さまの持ち場であると。

だから、すべて神さまに場所を譲ってしまって、あなたは、20～21 節にあるように、『あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。』悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」と言うのです。

しかし、気を付けなければならないのは。これは、神さまがわたしに代わって、相手を成敗し、うち滅ぼしてくださる、という意味ではありません。

わたしたちが、神さまの手にすべてを委ねて、自分で復讐することをやめ、飢え渴いた敵に食べ飲みさせてあげたとしても。もし、心の中で相手の滅亡を望み続けているのなら、それはやはり復讐心を抱いているのであり、相手を心で殺しているのです。

わたしたちが善を行うことが、燃える炭火を彼の頭に積むことになる、というのは、わたしの願う仕返しを神さまがしてくれる、という意味ではありません。

燃える炭火を彼の頭の上に積むとは、神さまのお働きが、彼の上に臨むということです。確かに神さまは、彼の罪に対して、非常に激しく怒られるでしょう。そして、神さまは、彼を悔い改めへ導こうとされるのです。燃える炭火は、神さまが、彼の罪を悔い改めさせようとなさる火です。

神さまが求めておられることは、罪人が滅びることでしょうか。お造りになった命が、御自分に背き、離れていった。そして、互いに傷つけあっている。神さまは、その罪人たちを手放し、見捨てられ、滅ぼされるのでしょうか。そうではありません。

神さまは、わたしたちを、一人一人を、ひと時も放っておけないほどに、居ても立っても居られないほどに、愛しておられます。

ですから神さまは、罪人が、自分の罪を知り、悔い改め、神さまの許に立ち返ること。神さまと共に生きる者となることをこそ、望んでおられるのです。

わたしたちは、この神さまの御心を知らなければなりません。

そして、この御心によってこそ、今、ここにいるわたしも、神さまに罪を赦され、生かされていることを知らなければなりません。

頭に燃える炭火を積まれているのは、わたし自身でもあるのです。

<イエスさまの十字架>

さて、わたしたちの怒りの場所を引き取られ、「復讐はわたしのすること、わたしが報復する」とおっしゃった神さまは、どうなさったでしょうか。

驚くべきことに、神さまは、その怒りを、報いを、ご自分の御子イエスさまに、すべて向けられたのです。

人は誰も、この神さまの怒りに耐えることは出来ません。だから神さまは、ご自分の御子イエスさまを、わたしたちに与えてくださいました。この方を、罪人のわたしたちの身代わりとして、遣わしてくださったのです。

神さまは、ご自分がお造りになった命が、わたしたちが、一人でも滅びることをよしとしない。それほどに、わたしのことを愛してくださる。憐れんでくださる。このわたしの命を、イエスさまの命に代えて救ってくださるほど、わたしを惜しんでくださるのです。

そして、神の御子イエスさまは、その父なる神さまの御心に従い、十字架の死を、わたしたちのために引き受けて下さいました。わたしたちの罪を、わたしたちが受けるべき神の怒りを、審きを、すべてご自分の身に引き取り、十字架で死んでくださったのです。

そして、神さまは、十字架で死なれた御子イエスさまを、三日の後に復活させられました。

それは、あなたの怒りも、あなたの復讐心も、あなたの呪いも、そして、あなた自身の罪も、すべてこの十字架で滅ぼされた。神の御子が、あなたの罪にも、悪にも、敵意にも打ち勝ち、それらを滅ぼしてくださった。だから、あなたはもう罪に、怒りに、復讐心に支配されなくてよい。そこから解放されて、神さまの愛に支配されて、生きることができる。

そのように、神さまは、イエスさまの復活によって、宣言して下さいました。

イエスさまの十字架と復活によって、罪を赦されたわたしたちです。滅びを免れたわたしたちです。わたしが受けるはずだった神さまの怒りと審きが、イエスさまに下されたことを知らされたわたしたちです。

だから、あなたは、迫害をする者を呪ったりするな。悪に悪を返すな。審きは神さまがなさることであり、その報いはすべてイエスさまが受け止められた。あなたには、そうしてすべてに勝利されたイエスさまが共にいるのだから、悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。「できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい」(18 節)。そう言われるのです。

悪と怒りと復讐が満ちている世界で、しかし、神さまと共に生きるあなたは。すべてを神さまの御手に委ねて、神さまが望んでおられることを行いなさい。そう言われるのです。

<神さまの御心に生きる>

神さまが望んでおられること、神さまの御心とは、罪人が悔い改めて、神さまの許に立ち返り、神さまと共に生きる者となることです。

わたしたち、教会に集っている者たちは、すでにその神さまの御心によって、イエスさまの十字架と復活の救いを与えられ、罪の赦しをいただき、神さまの怒りを免れ、神さまと共に生きるようにされた者たちです。

だからわたしたちは、悪を行う者も、敵対する者も、迫害する者も、この神さまの御心の中にあることを思って、神さまにのみ希望を持ち、苦難を耐え忍び、たゆまず祈るのです。

すべてに勝利されたイエスさまの御許にいるわたしたちは、もう、ねたみや、憎しみや、怒りに支配されてはなりません。それは、互いを傷つけ、自分も相手も滅ぼすだけです。

わたしの心は、神さまに支配していただく。愛し、憐み、赦してくださる神さまの思いに、わたしの心を支配していただく。罪人を滅ぼすことではなく、生かすことを望んでおられる神さまの御心に、すべてを委ねるのです。まさに、その御心によって、わたしも救われ、生かされているからです。

そして、この神さまの許に、イエスさまの十字架の許に、皆が集められ、罪を悔い改め、赦され、生かされることによって、はじめてわたしたちは、互いに愛し合い、赦し合い、共に生きていくことができるようになるのです。

ですから、この「第六戒 殺してはならない」は、殺すこと、そして心の隠れた殺人を戒めるだけではなく、積極的に隣人を愛すること、わたしたちが良い交わりを築いて、共に生きることへと、導こうとしています。問 107 にはこうあります。

問 107 しかし、わたしたちが自分の隣人をそのようにして殺さなければ、それで十分なのですか。

答 いいえ。神はそこにおいて、ねたみ、憎しみ、怒りを断罪しておられるのですから、この方がわたしたちに求めておられるのは、わたしたちが自分の隣人を自分自身のように愛し、忍耐、平和、寛容、慈愛、親切を示し、その人への危害をできうる限り防ぎ、わたしたちの敵に対してさえ善を行う、ということなのです。

この戒めは、ただ隣人を殺さないための戒めではなく、隣人と共に生きていくための戒めなのです。隣人を愛すること、憐れむこと、助けることを求める戒めなのです。

それは、今日読まれた旧約聖書のレビ記 19 : 17~18 にもよく表れています。こうありました。「心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。」

兄弟を憎んではならない。復讐してはならない。恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。

そして神さまは言われます。「わたしは主である。わたしが主である。わたしがあなたの主であり、あなたの隣人の主であり、命の主であり、審きの主である。わたしに任せよ」と。

<神さまにはお出来になる>

しかし、迫害する者を祝福すること。憎んでいる者を愛すること。敵対する者を助けること。悪に対して善を行うこと。これは、わたしたちにとってもあまりにも困難です。

神さまが、すべてを引き受けてくださる。神さまが、すべてを御心へと導いてくださる。そう教えられても、神さまが望まれるように生きることは、わたしたちにとって、まったく不可能なことのようには思われます。

でも、このことは、出来るか、出来ないかが大切なわけではありません。そのように生きることを求めるか、どうか、大切なのです。神さまが望まれていることを知って、神さまの御心を知って、それに従うことを祈り求めるか、どうか。それが、大切なのです。

わたしたちには、出来ないことばかりです。でも、神さまにはお出来になります。わたしたちが心から祈り求めるなら、神さまは、わたしたちに力を与えることがお出来になります。そのことは信じなければなりません。

カルヴァンという人は、この「あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません」という箇所の聖書注解で、こう述べています。

「わたしは告白するが、このことはまことにむずかしく、人間の本性に逆行することである。ではあるが、神の御力によって切り抜けることができないほどのむずかしいことは、何一つない。そして、神の御力は、われわれが怠ることなく祈り求める限り、われわれにこと欠くものではないのである。」

わたしの主である神さまが、わたしの心を支配してくださり、わたしに力を与えてくださり、わたしをイエスさまの復活の命に生かしてくださるのならば。わたしのすべてを担ってくださったイエスさまが、いつもわたしと共にいてくださるのならば。

わたしたちは、もう怒りに支配されずに生きていくことができる。悪に負けることなく歩んでいくことができる。イエスさまにあって、愛する者となること、赦す者となることを求めて、神さまの御心に生きることを求めて、歩んでいくことが出来るのです。

【お祈り】

わたしたちの命の造り主であり、支配者である、天の父なる神さま

わたしたちは、いとも簡単に、あなたの戒めを破っています。ねたみに、憎しみに、怒りに、復讐心に身を任せ、隣人との関係を破壊しようとし、隠れた殺人を繰り返しています。

しかし、神さまは、わたしたちが神さまと、隣人と共に、愛に生きること。よい交わりを築いていくことを望んでおられます。

あなたの御心に背く、わたしたちの罪をお赦してください。そしてまた、わたしたちが隣人から受けた、あるいは隣人に与えた、深い傷を、癒してください。

そのために、御子イエスさまが負われた傷、受けた苦しみ、十字架の死を、わたしたちに覚えさせ、あなたの愛の御心で、わたしたちを支配してください。

わたしたちには困難なことも、どうか、あなたの御力によって、なさしめてください。

このお祈りを、十字架と復活の主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

【讚美歌】 529 「主よ、わが身を」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン